

令和6年3月18日(月)

学ぶ心（松下幸之助）

自分ひとりの頭で考え、自分ひとりの知恵で生み出したと思っ
ていても、本当はすべてこれ他から教わったものである。

教わらずして、学ばずして、人は何一つ考えられるものではない。
幼児は親から、生徒は先生から、後輩は先輩から。そうした今までの
数多くの学びの上に立ってこそ自分の考えなのである。自分の
知恵なのである。だから、よき考え、よき知恵を生み出す人は、同
時にまた必ずよき学びの人であるといえよう。

学ぶ心さえあれば、万物すべてこれわが師である。

語らぬ木や石、流れる雲、無心の幼児、先輩のきびしい叱責、後
輩の純情な忠言、つまりはこの広い宇宙、この人間の長い歴史、ど
んなに小さいことにでも、どんなに古いことにでも、宇宙の摂理、
自然の理法がひそかに脈づいているのである。そしてまた、人間の
尊い知恵と体験がにじんでのいるのである。

これらのすべてに学びたい。どんなことから、どんな人からも、
謙虚に素直に学びたい。すべてに学ぶ心があって、初めて新しい知
恵も生まれてくる。よき知恵も生まれてくる。学ぶ心が繁栄への第
一步なのである。